



はとの子だより

No.6 令和6年8月30日(金)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

日々の学びと地続きで～夏休み作品展～

2学期が始まり、明るい表情で登校してきた子どもたちをたくさん見ることができました。夏休み中は閑散としていた1年教室前の庭に再びずらりと並んだアサガオの鉢が、楽しかった夏の思い出を口々に伝え合っているかのようです。にわかに活気づいた校舎で数日過ごす、あっという間に足取りが軽くなります。

その勢いで初日の放課後、各学年棟を巡り歩くと、夏休み中に製作した自由研究や工作などの作品がずらりと展示されていました。ご家族であだこうだと相談しながら、額に汗して完成を目指した姿が脳裏に浮かんできました。

今年度目に留まったのは、1学期の学習を発展的に学び直したり、昨年度あるいはそれよりももっと以前からの研究を継続したりしている作品です。

6年生の社会科の授業で、秋田県が戊辰戦争にどのように関わったのかについて学ぶ、本校独自の新たな単元を開発・実践しました。それがよほど心に残ったのか、数名の子どもが、更に深掘りしたり、異なる視点から調べ直したりして、戊辰戦争についてまとめています。

5年生の家庭科でも、ジャガイモのおいしい煮方について実験的な授業が行われていたのが、よほど印象に残ったのでしょうか。その品種や特徴について、かなり詳細に調べた作品がありました。

新聞社が主催する新聞の切り抜きコンクールが毎年行われていますが、数年にわたり継続して作品を創り続けている子どもが複数の学年にまたがっています。中学校2年生の読解力を基準としている新聞記事を、小学生が読むだけでも大変なはずですが。

乳製品について、様々に視点を変えて、毎年研究物をまとめてくる子どももいれば、毎日お父さんの職場に持参するお弁当をつかった子ども、ちょっとシュールな4コマ漫画を毎日描き続けた子どもなど、長期的な視点で、家族とともに継続して一つのことに没頭した成果が、どの学年の展示場にも溢れていました。「継続は力なり」ということを、具体的な作品の成果で改めて教えてもらったように思います。

学校まで足をお運びいただき、ご覧になられたご家庭の方々にも感謝申し上げます。



英語にどっぷり浸れる1900冊

夏休み前に、はとの子ギャラリーに保管していた古い図書を、ご家庭の皆様にお分けしました。がらりと空いた書架に、今度は英語の絵本が並んでいます。その数、なんと1900冊。



NTTコミュニケーション科学基礎研究所と研究提携し、児童の英語や日本語の語彙の発達やその相関、コミュニケーション能力の発達との関連などについて長期にわたり研究することとしています。1900冊の英語絵本は、そのための研究素材として同研究所より貸与されたものです。

様々な授業場面での活用にとどまらず、今後は、子どもへの貸し出しも始める予定です。現在、貸し出し用の端末を導入し、システム整備を進めています。ご家庭での英語教育に活用したり、絵柄を眺めて楽しんだり、多様な楽しみ方ができますのでご活用ください。

おめでとう合唱部 ~Nコン・全日本で大活躍~



8月9日に開催されたNHK学校音楽コンクール秋田県大会、同25日に開催された全日本合唱コンクール秋田県大会に、本校の合唱部が出場し、見事にどちらも金賞を受賞しました。

Nコンは9月15日に宮城県で開催される東北大会へ、全日本は11月17日に福島県で開催される全国大会へ、それぞれ推薦をいただくこともできました。

また一つ上のステージで、更に磨きをかけた歌声を響かせることを期待しています。おめでとうございました。

1学期終業式・2学期始業式の発表から

それぞれの教室で学ぶ子どもたちの姿を見ていると、「ああ、どの子にもドラマがあるのだな」としみじみ感じる場面があります。1学期の終業式や2学期の始業式で発表してくれた代表の子どもたちの言葉一つ一つにも、その子なりのドラマが見え隠れしていました。＜1学期終業式から＞



2年 山田つむぎさん

「ふきのとうのお話をグループのおともだちときょう力して、ようすがよくつたわるようにくふうしながらはっぴょうをしました。…これいがいのお話を読むときも、ようすがつたわるように読みたいです。」



4年 櫻庭架純さん

「自分がハテナだと思っていたかけ算の式を見つけることができました。筆算の中にかけ算がある理由が分かり、もやもやしていた気持ちがすっきりしました。…今度は、わたしのようにハテナがうかんでいる友達がいたら分かりやすく説明してあげたいです。」



6年 矢野登真夢さん

「ぼくたちの修学旅行の自主研修はハチャメチャでハプニングだらけでした。でも、仲間割れも一切ない最っ高の自主研修となりました。…ハプニングがあるごとに楽しくて、笑いとパワーがあふれていきました。「いろいろな人がいるからこそ楽しい。」これまでとはひと味違う心地いい時間の流れを感じました。」

< 2学期始業式 >



1年 カケリ美英さん

「どうぶつえんでは、うさぎとモルモットのせわをしました。…しごとはたいへんだったけれど、どうぶつたちのせわをちゃんとできてうれしかったです。さいごにほんもののくじゃくのはねをもらいました。」



3年 三浦帆乃夏さん

「…わたしはおじいさんに「あのさんかじょう」という言葉を教えてもらいました。あのさんかじょうは、あなどるな、あせるな、あきらめるなの三つです。…「あのさんかじょう」を頭に入れて、文武両道を目指して、二学期の力ためしテストもがんばりたいです。」



5年 渡邊仁菜さん

「私が思う理想の自分とは強く優しい自分です。でも現実には、目的や大事なことをうっかり忘れてしまうことがあります。…「自分のやってきたことをふりかえる。」これは、私が思う理想の自分になるための一つの手段です。」



2学期始業式 佐々木雅子校長先生のお話



皆さん、おはようございます。34日間の夏休みが終わり、きょうから2学期が始まります。よい夏休みにできましたか？ひとりひとりにとって、きっとよい夏休みだったにちがいないと思います。

パリオリンピックでは、多くの選手の完全燃焼する姿を目にし、感動しました。例えば、男子体操団体。苦しんだ末の金メダル。団体の5人は決勝前の日のミーティングで、金メダルを絶対にとりたいという思いを確かめ合ったそうです。その時、流れてきた歌の歌詞を聞いて心が奮い立ったそうです。その「どんな時もそばにいることを忘れないで。そのためにこの場所で、同じ風に吹かれ、同じ時を生きてるんだ」(『たしかなこと』作詞・作曲・編曲 小田和正 2005年より 一部改変)という歌詞に心が熱くなったそうです。歌の力ですね。

さて、歌といえば、合唱部の皆さん、Nコン秋田県コンクールでの金賞、全日本合唱コンクール秋田県大会での金賞・最優秀賞おめでとうございます[拍手]。ミルハスに流れた皆さんの自由曲『歌え 地球の子どもたち』の美しい歌声を聞いていて、「大人には分からない 地球の声が聞こえるよ」という歌詞にハッとしました。子どもは、大人が失ってしまう何かを持っていると。そんな、子どもにしかわからない、みなさんにしか分からない何かがあると思いました。

もう目にしたかもしれませんが、2階の渡り廊下の本棚に英語の絵本が1,900冊入りました。実はその中にも、子どもにしか聞こえない音をもつ鈴が出てくる絵本があります。Chris Van Allsburg (クリス・ヴァン・オールズバーグ) 作の『The Polar Express (ポーラー・エクスプレス 急行「北極号」』というお話です。ただし、そのお話の主人公には、大人になっても、その鈴の音が聞こえています。私もそうありたいな、と思いました。子どもだけが聞こえる声や音が、聞こえ続けられるように、「心で感じる」ことを失くさないようにしましょう。

150周年のクライマックスを迎える2学期。過去150年にわたる先輩の思いを受け継ぎ、後輩へその思いと伝統をつなげて下さい。一生懸命頑張ることのできる心で、お友だちの声を心でしっかりと感じ、みんなで「のびのび きびきび わくわく」できる2学期にしましょう。先生方と一緒に、私も精一杯応援します。



四年外国人留学生と交流



教育実習
始まりました

